地域医療連携室たより

No.13

信頼と融和で創るよい医療

安全・安心・信頼される公正な医療の実践

発行日
2009年４月10日
医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院
地域医療連携室たより
第13号

リハビリ医療の充実をはかりたい

整形外科部長兼
リハビリテーション科長
小林真司（こばやし しんじ）医師

・山梨県生まれ
・所属学会等
　日本整形外科学会（専門医）
　日本リハビリテーション学会（専門医）
　日本リウマチ学会（指導医）
　日本体育協会公認スポーツドクター
・役職
　東北整形災害外科学会誌査読員
　東北股関節症例検討会世話人会
　日本リハビリテーション医学会
　東北地方会幹事

４月より当院へ赴任

今春、４月より当院に赴任。生まれは山梨県下部（しもべ）町。武田信玄が傷を負った際、湯治治療を行い回復したという温泉、信玄公の隠れ湯ともいわれる下部温泉が近くにある。医師を目指したきっかけは中学生の頃。眼をけがし、２つ隣の町までいかなければならなかった。下部町（今は市町村合併で身延（みのぶ）町となっている）は無医村に近い状態であった。

山形大学医学部、大学１年の時、至誠堂総合病院で初めて実習を行った縁がある。現在当法人の中山町にある中山診療所所長の桐井宏一医師が指導を担当してくださった。髙橋敬治院長が山形大学の第一内科在職中、講義を学生時代に受けた世代である。また学生時代は柔道部に所属し、鈴木光典医師のひとつ先輩で、中島幸裕医師とはアパートが一緒だったなどの縁もある。

最初、大学病院で診ていた患者さんとはジェネレーションギャップを感じるかもしれないが、当院は高齢者の患者が多いということは承知である。大きな病院だと先端医療もできるが、分業がすすみ、横のつながりがなくなってしまう感じがする。また、当院は医局も含め、アットホームな印象を受けている。

元々、外傷をやりたかった。部活の先輩たちとのつながりもあり整形外科を選んだということもある。整形外科の専門医で、とくに股関節領域が専門である。

骨折予防のための骨粗鬆症の治療にも取り組みたい

高齢者が動けなくなる原因として、「大腿骨頚部骨折（あしの付け根の骨折）」「脊椎の圧迫骨折（せぼねの骨折）」などがある。とくに大腿骨頚部骨折は手術しないとなかなか歩けるようにならない。高齢者は５人に一人の時代である。高齢者の方は合併症を多くもっており、すぐに手術にならないこともある。内科管理も重要だ。予防の医療として骨粗鬆症の治療が今後の課題とも考える。骨折の原因が骨粗鬆症にある場合が多い。積極的に取り組みたい。基本は薬物、食事、運動治療である。散歩は一日4,000歩〜6,000歩、カルシウム摂取は600mgとかいろいろある。代謝を良くするにはある程度運動しないとだめである。

大腿骨頚部骨折の回復と呼吸器リハビリの関連にも

今後の抱負として、鈴木光典医師と一緒に整形外科を盛り上げていきたい。大腿骨頚部骨折の手術はしたけど、時間をかけてのリハビリができる病院が少ない。大学病院ではリハビリテーション部の副部長として従事していた。当院のリハビリ医療を充実させていきたい。

リハビリといってもいろいろある。運動器リハビリ、脳血管リハビリ、心臓リハビリなど。当院は髙橋院長が呼吸器診療に精通していることもあり、呼吸器リハビリに力をいれている。大腿骨頚部骨折の回復との関連なども研究できるのかなと考えている。例えば呼吸器リハビリを一生懸命やれば術後の日立ちがいいとか。そういうことがわかればいっそう効果的なリハビリができるようになる。

日本リハビリテーション学会の専門医のほかに日本リウマチ学会の指導医をもっているのでリウマチ治療もやっていきたい。治療薬の研究も進み有効な薬もたくさん開発されている。リウマチ医療を専門的にやっているところは数少ない。

日常診療で気をつけていることは、「わかりやすい言葉で」「鼻高くならないように」「検査所見はわかりやすい言葉で話す」「細かい所見も見落とさないようにする」「先入観でみないこと」などかな、と語る。

大学病院との架け橋役に

しばらくは大学での週一回の外来を続け、手術にも行くようになるが、今後、大学との架け橋にもなっていけたらと考える。大学でリハビリが長くなりそうな方はこちらに紹介し、また、逆に当院から大学病院へ紹介ということでつながりをもっていけたらと思う。

ストレス解消法は？

小学生のころから柔道はしているが、今は観戦が中心。ドライブが好きでたまに遠出をする。妻も犬が大好きで２匹飼っている。室内犬で、小さいが、散歩となるとやはり走りでは負けてしまうとか。

穏やかで静かな口調でこれからの抱負を中心にお話していただきました。当院、鈴木医師の１年先輩である小林医師、いろいろなつながりのなかで当院に赴任となりました。今後ともどうかよろしくお願いします。

私たち、リハビリスタッフ23人 患者さんの笑顔が見たい

沼沢　和宏 作業療法士

当法人松柏会はリハビリスタッフ、病院と在宅を合わせ、理学療法士（PT）11人、作業療法士（OT）８人、言語聴覚士（ST）３人、歯科衛生士１人（３月より）、総勢23人で機能回復の医療を行っています。

今回、沼沢和宏作業療法士に密着しました。
「Aさん､起きるリハビリをしますね。前に体を起こし､ぐっと体を倒して｡ここをつかんでね｡」Aさんは昨年11月に脳梗塞を発症し、近隣の病院から当院にリハビリの目的で転院してきました。身体が麻痺しうまく動かせません。車椅子に体を移動し、病棟からリハビリ室に向かいます。

人との交流が意欲づけにつながる

「こんにちはー。」みんながにこにことして迎えます。Aさん、今日は籠作りに挑戦。麻痺した指を懸命に使い、テープを巻いていきます。リハビリ室に集まり、人との交流のなかでリハビリすることが、その人の意欲づけにもなります。「あの人があんなことをできるようになった、私も」と。

心も身体も満たされて笑顔になる

患者さんが違ったことに挑戦し、ひとつひとつのことができるようになる。そうして、心も身体も丈夫になり、心が満たされ、笑顔がみえてくる。そんな時が作業療法士としての喜びであると沼沢OTは言います。
「体こわくないかー」「手こわくないかー」と声がけします。「今度、ミニトマト、二十日大根、プランターでつくってみるかー」自宅での生活が順調になるよう、Aさんの一歩一歩の挑戦が始まります。

リハビリ室にて

仕事がなく、医療機関受診抑制につながる

一職場一事例報告集会　２月26日（木）午後１時～２時

❏患者支援のあり方を考える

社会保障制度の問題や、経済的状況の困難さから医療を充分に受けられない患皆さんの事例を出し合い、問題点を全職種で共有し、今後の患者支援のあり方や取り組みを考えるための学習会を行い様々な発言がだされました。

髙橋敬治院長より、県内の企業でも派遣切り、多数の臨時職員の雇用が打ち切られているという厳しい情勢を認識し、立ち向かっていきたい。鈴木光典医師は、私たちは目の前の患皆さんの対応に追われがち、冷静に振り返り「この国はいったいどこを間違えているのかを正したい」と。

医療をうけることに伴う「困難事例」の報告を各職場、訪問看護ステーションコスモスの看護師、病棟看護師、医事課職員、友の会職員よりだされました。

一例、医事課職員よりの報告は以下の通り。54歳、男性。糖尿病疾患で、インスリン注射をおこなっている。失業、収入がない時期は具合が悪くても受診をためらい、中断。

❏のびのびした療養が出来るように

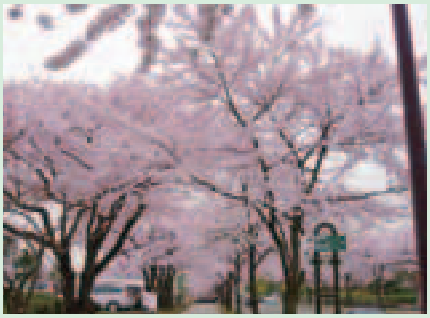
伊藤英三副院長より以下の表明あり。患者さんを支援するにあたり、利用できる制度はないか、精査をおこない、国保44条を検討することもあるのではないか。長期療養を必要とする人がのびのび療養できるよう日本の医療制度のあり方を探っていきたい、と。

深刻な雇用情勢のなか、患者さんのいのちと暮らしを守る取り組みを前進させたいという気概のあふれる集会となりました。

❏県内で相次ぐ雇い止めや解雇

県内では昨年10月～今年６月までに失職、または失職予定の県内の非正規雇用労働者が5,372人（3/19山形労働局調査）に上ります。

そんななか、年度末３月29日（日）、霞城セントラル広場にて「派遣村山形県版」、日中の炊き出しと相談活動を中心にした取り組みが開催され、「健康相談コーナー」に当院職員も参加しました。



大手門公園通り　桜並木（'08 春）

我らが街　桜町・木の実町商店街 ④

フラワーギフト　モトキ　～花に思いを託し～

山形市桜町４－18　TEL023－632－0218　9:30a.m～7:00p.m

◇元木善一さんに聞く

近所のおばあちゃんが世間話をしながら、花を買っていきます。

昭和54年10月創業。27歳のとき独立し、店をもちました。午前８時から前田町と和合町の生花市場に仕入れにいきます。３月は一年中で一番忙しく、花の値段が高い時。卒業式、送別会、謝恩会、人と人の出会いと別れの季節。感謝や、喜び、人それぞれの思いを花に託します。

息子さんと二人でやっています。花のアレンジはそれぞれ違いますが、お客さんが満足してくれた時が一番うれしいとき。善一さんはボリュームのあるアレンジになるとか。桃、桜、スィトピー、チューリップ、フリージア、スプレーンなど、たくさんの花々。さて、あなたは今春、どなたかに、花を贈りましたか？

日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価 Ver.5

編　集　後　記

百年に一度の世界恐慌だという。先はどうなるのかという不安は常にある。
桜の季節。理由はないが、少し心は軽くなる。（K）

至誠堂総合病院
地域医療連携室
山形市桜町７－44
023－622－7551
http://www.shiseido-hp.jp
renkeisitu@shiseido-hp.jp
発行責任者　至誠堂総合病院副院長
伊藤　英三
編　　集　地域医療連携室